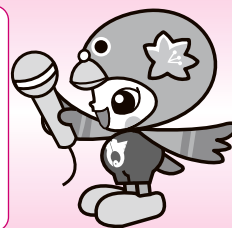


ここが課題!

議員一人ひとりの
決算に対する思いを
お知らせします



貧乏だがそれなりに!

関根 清隆 議員

大きな事業もなかったが、少ない所得(歳入)に対して2学期より給食費無償化ができたこと、また、まんべんなく福祉や空き家対策などに予算を使えたことは評価できる。

しかし『ちよつくま』の経営には、毎年2千3百万円の出費で将来が危うい。このままだと10年で2億3千万円の出費となり、今後の課題だ。

でも総合的に見れば、決算内容はほぼ健全で、認定できる決算内容だと判断した。

施設等の老朽化対策を

中山 明美 議員

予備費からの充当が令和4年度515万円だったが、令和5年度926万円になった。理由を聞くと、急なことで早急に対処しなければならぬことばかりで、納得はしたが、これからの施設等の老朽化が心配。

財政調整基金は増加しているが、6年度以降も、保健センターの空調設備工事はじめ、他の施設でも、鳩山幼稚園の空調設備、梅沢体育館、図書館、水道管等の修繕・整備が喫緊の課題である。

賑やかな街へ

小鷹 房義 議員

高齢化社会を迎え、医療・福祉・社会保障制度・経済など、様々な問題点がある。それには対策として、生活基盤を整備し、地域コミュニティを作ったり、自分に合った仕事や働き方を見つけるなどの工夫が欲しい。我が町は元気な高齢者が多く、その人たちに多くの予算を使ってほしいと考える。

決算報告について考える

森 利夫 議員

実質公債費比率と、将来負担比率は、国が示す基準数値に比べれば問題はない。しかし予算規模が近い近隣5町の自治体と、その数値を比較すると異常に高い。

また、財政調整基金等への積み立てや、町債残高削減計画を優先して予算執行をした結果、必要なインフラ整備や高齢者福祉への歳出が少ない。積み立てや返済も必要ではあるが、プライマリーバランスから考察すると、安心安全な町づくりのために、今こそ必要な住民サービスに歳出を増やすべきではないか。

介護保険特別会計

松浪健一郎 議員

第8期介護保険事業計画が年度末で終わり、4月から第9期に移行したわけだが、第8期では調整交付金約3億円(1年間で約1億円)が交付されなかった。その原因を執行部はソフトの責任にしているが、調整交付金の意味がわかっていれば交付されないのは明白。結果として保険料の値下げの原資にはならなかった。本来なら基金が3億円減少するところだが、基金が減らなかったのは不幸中の幸い。改めて高齢者の元気を再認識させられた。

しあわせが実感できる町に

野田 小百合 議員

デマンドの町外・土日運行、放課後こども教室、学校給食費の減免など、住民の要望を受け止めての堅実な事業が展開されてきた。

今後、高齢化に伴う様々な問題をクリアするための施策が必要になっている。役場だけでは対応できないこともある。住民の力を活かしながらすすめていきたい。

町民の皆さんが、鳩山に住んで良かったと、温かさを感じられる細やかな対応が望まれる。



ある日の給食
シチューのサッマイモは鳩山産



放課後こども教室
今宿キッズ

令和5年度 決算

ここを評価!

ふるさと納税の再考を

石井 計次 議員

本町では、寄付に対する返礼品を開始したのは平成27年度。令和5年度までの寄付額の累計は、返礼品に係る経費を差し引き約6423万円。それに対し、町民が他の自治体に行ったふるさと納税寄付額は約9440万円で差し引き約3000万円余りの赤字となる。

ふるさと納税の趣旨は、人口減少地域の地方創生・格差是正のはず。特産品の乏しい本町の住民税が、人気ある返礼品を持つ他の自治体に奪われ続ける格差拡大に国は真剣に目を向けるべきと考える。

3周年です ちよつくま



農業振興策をしっかりと

根岸富一郎 議員

農業振興のために泉井交流体験エリア、ちよつくま等が整備された。施設はあるものの、具体的な展開がなされていない。国として食料自給率を高めることは最重要課題である。

鳩山町としても、農業振興施策にしっかりと取り組んでもらいたい。



返礼品に新たに加わった
鳩山産ブランド「武蔵牛」

給食費の無償化を考える

清水 秀幸 議員

今、無償化を打ち出す自治体も相次いでいるが、地域格差が広がっている。厳しい財政状況の中、何が何でも無償化に走るのではなく、子育て世帯以外の理解も得られる制度とすべきである。

しかし、本来、授業料や教科書と同じく義務教育に関わる費用として給食費を無償化することは、国の責務であると考え、すべての子どもが安心して給食を食べられるように!

重郎橋周辺整備を県に求む

石井 徹 議員

限られた予算の中で、適切な効果的な実施が求められる厳しい行財政運営の中で、諸物価高騰での大きな影響を受けている生活者や事業者への支援を国からの臨時交付金を財源に実施できた。

しかし、単年度だけでなく、今後の学校給食費の無償化をはじめ継続的な取り組みに町独自の財源の確保が必要であり、自主財源確保策としての「ふるさと納税」「企業誘致」が重要である。

また令和5年度も進まぬ重郎橋周辺整備は町の重要案件であり、県へ早期の事業完成を求めるべきである。

【議会選出監査委員】 数値悪化事項の分析と改善を

日坂 和久 議員

令和5年度決算は前年度比較で、指標においては、将来負担比率の減少と経常収支比率の増加が目にとまる。

また、基金において、国保と介護関連の基金が取り崩しにより減少しているが、適切な補完・運用に努めていただきたい。

各事業においては、水道事業の赤字要因の大部分が漏水によるものと判明した。早急に漏水が激しい箇所調査・修繕が求められる。地中であり、あまり目立つものではないが、住民生活に支障の無いよう対応を望む。



大雨の度に冠水する重郎橋